

頁	行・図・式	誤	正
28	1	(ii)と(vii)の等価性は	(ii) ⇒ (vii)は
52	式(3.71) 第2式, 第3式	$\frac{x^T \lambda x}{\ x\ ^2} = \frac{\lambda x^T x}{\ x\ ^2}$	$\frac{x^T \lambda_{\max} x}{\ x\ ^2} = \frac{\lambda_{\max} x^T x}{\ x\ ^2}$
68	2	ができる。n 次の	ができる。より高次の
107	証明 2行目	$\text{span}(U \cup X)$	$\text{span}(U \cup Y)$
109	上1~4行	$\dim \text{span}(U \cup Y_k) = n < r + k \quad (4.122)$ <p>が成り立つとする。このとき、<math>r + k \geq n + 1</math> であるので、<math>Y=Y_k</math> に対して補題4.10 を適用することによりWが得られる。これを用いて<math>Y_{k+1}=W</math>と定めると・・・</p>	
123	証明 5行目	$v_i \in S^\perp$	$v_j \in S^\perp$
180	式(6.45)の 下	補題2.3より	補題2.3(の複素行列バージョン)より
185	下から4行目	式(6.82)は $x_r \in \mathbf{R}^n$ が	同様にして、 $x$ の虚部 $x_i = \frac{x - \bar{x}}{2i}$ に対して $P x_i = \lambda x_i$ が成り立つ。 $x \neq 0$ より $x_r, x_i$ の少なくとも一方は非零である。これらのことに $x_r \in \mathbf{R}^n, x_i \in \mathbf{R}^n$ の少なくとも一方は
193	1	その $x$ に関する	その $x$ の方向に関する
198	下から5行目	一般に	$\Lambda_1 = I_r$ の場合を除いて
207	定義の1行目	が式(7.19)で与えられた	が式(7.19), あるいは式(7.19)で与えられた
208	下から7行目	補題3.15(の複素行列バージョン)において	補題3.15において
217	式(7.132) の上	$\frac{\ A \alpha w\ }{\ \alpha w\ }$	$\frac{\ A w\ }{\ w\ }$
218	式(7.134)	式の後ろに $\ w\ ^2$ を追加	
	式(7.136)	式の後ろに $\ w_1\ ^2$ を追加	
228	式(8.26)の 1行目	$\leq$	$=$
236	7	式(8.74)と	式(8.66)と
253	補題の 1行目	が与えられているとする。	がたがいに等価であるとする。
257	証明5行目	が存在して	が存在し, 任意の $a_1, \dots, a_n$ に対して
263	7	補題8.21から,	補題8.21から, 実数あるいは複素数をスカラーとする
266	補題の 1行目	成立するので,	成立するので, 実数あるいは複素数をスカラーとする